

平成 24 年度第 2 回県立病院経営委員会 会議録

1 日時

平成 24 年 7 月 23 日（月）15：30～17：30

2 場所

岩手県民会館 4 階 第 2 会議室

3 出席者

(1) 委員

浜田委員長、阿部委員、姉帯委員、木村委員、工藤委員、小暮委員、山内委員
(8 名中 7 名出席)

(2) 事務局

遠藤医療局長、佐々木次長、熊谷経営管理課総括課長、菊池職員課総括課長、佐藤医事
企画課総括課長、菅原業務支援課総括課長、川上医師支援室長、千葉医師支援推進監ほか

4 議事

(1) 花泉地域診療センターの民間移管に関する検証結果（中間報告案）について

○経営管理課総括課長が、資料 1・別冊 1・別冊 2 により説明。

(2) 「岩手県立病院等の新しい経営計画」平成 23 年度 of 取組事項について

○経営管理課総括課長が、資料 2-1 及び 2-2 により説明。

〔委員〕

病床利用率は、23 年度 80.7%と改善されているが、平均在院日数はかなり短縮されて
おり、さらに病床利用率を上げるためには、病床数の削減を考えるべきではないか。
6 床室を 4 床室にして、入院のアメニティを向上することも考えられる。

〔委員〕

沿岸部の県立病院は、病床利用率が 6~7 割程度である。DPC などにより平均在院日数
は 15 日以下に短縮されていることから、病床利用率を上げるためには病床を削減せざる
を得ないと考えており、病院としても検討している。

〔遠藤医療局長〕

平成 10 年頃と比較して、外来患者は半分、入院患者は 3 割程度減少している。病床数
は削減してきているが、病床利用率が 70%程度の病院もあり、病床数を調整せざる得ない
と考えている。これについては、全病院長会議においても意見が出されている。

〔委員〕

地域診療センターについて、入院と外来を含めて、民間等に移管するということは考え
られるのか。

〔遠藤医療局長〕

地域診療センターについては、病床数 19 床以下の「診療所」であり、病床については休床している状況である。地元でベッドが必要であるとの意見があり、運営を希望する民間等があれば、入院機能と外来機能を全て移管することは考えられる。

病床数 20 床以上の「病院」については、県立病院として運営してほしいという地元の意見が強く、調整が必要である。

〔委員〕

医療計画の見直しは行われているのか。

〔高橋企画課長〕

保健福祉部において、平成 25 年 4 月施行に向けた見直しを行っている。この中で圏域ごとの医療体制についても議論していく。

〔委員〕

盛岡保健医療圏は人口が多く、患者を確保することができるが、県北・沿岸は患者の確保は難しく、民間の医療機関が運営するのは大変ではないか。

〔委員〕

医師確保の取組について、医学部の定員増、地域枠などにより、3~4 年後には、これまでより年間 40 名程度の医師が増えることとなるが、大都市集中の傾向があり、沿岸部に医師が来るとは限らない。

本県では、地域枠の医師をコントロールする部署が複数あり、奨学金の形態も異なる。

また、診療科ごとの偏在もあり、医師が不足している診療科については、奨学金の返還を免除するなどの特典を考える必要があるのではないか。

〔川上医師支援推進室長〕

診療科ごとのインセンティブについては、病理科など医師がほとんどいない科もあるなど、どのような方法が考えられるのか、時間をいただいて検討したい。

〔委員〕

医学部の定員増加に伴い、教職員を増員する必要がある、これまで医療機関に派遣していた医師を引上げることが考えられる。研修医に残ってもらうなど、医局派遣以外の対応も考える必要がある。

〔遠藤医療局長〕

岩手医大からは、学年進行にしたがって教職員を増員する必要があるとの話を聞いているが、県立病院の医師は引上げないようにお願いしている。

〔委員〕

地域枠の医師は、県が指定する地域に勤務すれば、奨学金の返還が免除されるのか。

〔野原医療推進課総括課長〕

地域枠の医師は、キャリアアップしながら、地域で勤務してもらうこととなる。

診療科の特性や、専門医志向がある医師について、地域の勤務をどのように調整していくのかなどの課題がある。

〔委員〕

医師だけではなく、コメディカルも不足している。コメディカルは全体の定数が決まっており、増員するのは難しい。

最近は業務内容が増えており、新しい職員はついていけなくなることもある。

ある程度ゆとりを持って業務をしてほしいと考えており、定数の拡大を検討してほしい。

〔委員〕

病床数を削減すれば、コメディカルの不足も解消されるのではないか。

〔委員〕

医師の確保について、県職員の同級生などのために声をかけるなどの対応も必要ではないか。

〔川上医師支援推進室長〕

県人会の活用、県職員の親類の医師を採用するなど、可能な限りの情報を集めて医師確保に努めているところであるが、今後もいろいろなアイデアをいただいて、医師確保に努めたい。

(3) その他

○ 次回委員会の公開・非公開について

- ・平成 23 年度取組状況について、前向きに取り組み、成果が上がっている項目があるので、委員会を公開し、対外的にアピールする必要があるのではないかとの意見が出された。
- ・花泉地域診療センターの民間移管に関する検証結果については、特定の法人、個人に関わる情報や、検討段階の未成熟な情報が含まれることが想定されることから、次回委員会の公開・非公開については、事務局と協議のうえ、委員長が決定することとした。